

浜 総 企 第 5 4 号

平成20年10月14日

国土交通省道路局長 様

浜頓別町長 廣 瀬 忠 雄



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

平成20年0月19日付け国道企第37号で依頼のありましたこのことについて、別紙のとおり提出しますので、よろしくお取り計らい願います。

(総務課企画広報係)

今後の道路行政についての意見・提案

様式①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

北海道浜頓別町

地域住民へ道路の必要性、重要性をこれまでに以上に発信することが大切と考えます。真に必要な道路の確保については、住民の総意を基本に、地域住民と行政側のネットワーク化を図るとともに、地域の実情に沿った道路の在り方を検討することが求められていると考えます。住民参加型の道路行政を一層進めていただきたい。

今後の道路行政についての意見・提案

様式②

②-1 地域の現状と抱える課題

北海道浜頓別町

○現状 本町には、国道 238 号と 275 号が、道北、道東を結ぶ重要な路線として、農業、水産業、生活、医療、流通、観光等に大きな役割を果たしております。 道道は、主要道道豊富浜頓別線、一般道道豊牛下頓別停車場路線、浅茅野台地浜頓別線、頓別港線が、地域内の生活、産業を支える幹線道路としての役割を果たしております。 町道は、平成 19 年度現在で総延長が 260,330m となっており、内改良済延長は 158,323m (60.8%)、舗装済延長は 123,335m (47.3%) となっております。また、公共交通機関は、昭和 60 年に国鉄興浜北線、平成元年に J R 天北線が廃止され、その後代替バスとして、枝幸町～浜頓別町間、稚内市～音威子府村間、札幌市、旭川市へのアクセスとして都市間バスがそれぞれ運行されております。	○課題 国道 238 号の防雪対策や防災危険箇所整備、国道 275 号の下頓別市街地をはじめ曲線狭隘箇所の解消や天北峠の整備が求められております。また、本町と中頓別町間は、交通事故が多発しており、交通安全の啓発を強力に進めるとともに、未然防止対策を図る必要があります。
--	--

国道 238 号はオホーツク沿岸を走る幹線道路で、農業、水産業の振興等、南宗谷の観光出入口として、その重要性が以前にも増して高まっており、津波や雪害などの災害に対しても、十分な防止対策が図られるよう整備が必要です。また、道路の多機能性の観点から、地震・津波速報等の周知・観光情報など住民の身近な情報としてその効果が期待されます。

国道 275 号は名寄市、旭川市方面などの都市部へのアクセス道で生活、医療、基幹産業の流通道路として、住民の生活に密着した主要幹線であります。今年度、浜頓別町・中頓別町「命をつなぐ街道」期成会を住民総意のもと設立され、この地域の高速交通体系の空白地域の解消とともに、名寄市への救急搬送の時間短縮を目指すなど、住民生活に直結した道路として環境整備を期待するものであります。

今後の道路行政についての意見・提案

様式④

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

北海道浜頓別町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等
①道路情報機能の活用	国道 238 号はオホーツク海沿岸の脇を走り、海との高低差も数メートルと低く、津波時には甚大な影響が懸念され、津波発生時を想定した場合、住民へ素早く情報を提供することが重要であると考えます。本町でも地域防災計画により最善の方法を検討しておりますが、財政面などの課題もあり、現在、地域との連絡網の確認作業などを実施し、鋭意地域防災の整備を進めております。 今回、道路情報機能を更に有効活用できれば、住民への災害時の連絡体制が容易になり、避難体制が一層充実されるものと考えます。	津波時の連絡体制がトータルで拡大するとともに、初動体制が一層充実される。
②救急搬送の時間短縮	脳疾患の場合、時間との勝負と言われているように、いち早く高度医療を受ける必要があります。本町から搬送先の名寄市立病院への区間については、曲線部が多く直線化を図ることにより、時間短縮は勿論のこと、特に冬期間の安全運行が図られる。	脳疾患の早期治療が一段と高まり、地域住民の健康を守ることができると期待する。